

平成二十一年（二〇〇九年）三月十四日 大和魂

神から人へ、人から神へ。

多くの縁と 絆に結ばれ、人はこの世で 行をなし、一人でなし得ぬ 功を 積み、果てし後には 宇宙に帰り、
子々孫々までも 栄えるように、天より見守り、導かむ。

さにて本日、日本人の靈性と関連する 大和魂について、詳らかにせむ。

人は この世に生を享け、それぞれの土地、風土の中にて、歴史の流れに 交わりながら、
伝統、文化を身につけて、御魂の奥に そを刻む。

なれば 日本は、大和なる国、大和の地にて、育まれ、御魂を養い、後へと継がる。

大和の土地は、大なる和なれば、人は互いに和やかに、丸く納まり、争いもなし。

なれば治世も 穏やかに、上下の別なく 勤勉に、身をば慎み、分をわきまえるもの。

さなる御魂を根源に持つ、世にも稀なる 尊き魂。

高きは低きを 卑しまず、低きは高きを 敬いて、互いに親しみ 睦み合う、大なる和こそが、大和なり。

人は互いに平等に、神の周りに 等しく集い、

神の御影に 感謝を捧げ、地上に住める喜びを、祈りに表わし、奉る。

自然の中に 神を見出し、畏れ畏む、謙虚さは、神への感謝と一体に、

万物融和の 理想を掲げる、類なきまでの 尊さよ。

ことばは清らに、言霊を秘め、優美な音にて 表わさる。

弱きを助け、卑怯を嫌い、身の潔白を 第一として、

神の前にて 恥づることなき、身の証こそ 立てまほしけれと、命も惜しまぬ、勇みの御魂よ。
上なる者ほど 己に厳しく、倫理の心を練磨して、下なる者を慈しみ、
内なる基準に 神あれば、万古不易の 礎ならむ。

大和の御魂に 呼び掛けむ。今こそ目覚めよ、甦らせよ。

大和の御魂の 尊き息吹きを、眠りの中より、吹き返せ。

地上を覆う、邪なる気を、大和の地より、祓い去れ。

数は少なく、微力なるとも、一人ひとり目覚めれば、

大和の御魂は 宇宙と呼応し、地上の悪さえ 凌駕せむ。

人の内なる 宇宙の理、そこに目覚めるが 先決なり。

自然を 離れ、遠ざけるほど、人の心は 荒みを進め、自ら苦しみ 悩みを 深めむ。

大和の御魂は 自然の中にて、宇宙の則に 外れることなし。

太古の人の始まりは、宇宙の神秘を 授けらるれば、それを伝えるが 言霊なりき。

時は昔に戻れねど、ことばに込めらる言霊にて、人は大和の 御魂と返れよ。

尊き御魂は 亡ぶことなし。

時の来たらば、必ずや、尊き使命を 果たさざるなし。

絶えて 守りて、信じ、待つべし、やがて訪る 栄光を。さにて。